



Shining ほいく



公開保育特集号



令和5年5月18日(木)
板橋区保育運営課

この研修は、区立保育園が保育を公開する中で、実践を通じた学びを地域で共有するために、「保育の公開」及び「地域交流研修会」を柱に開催されているものです。

5地域ごとに「公開保育」に取り組んでいます。

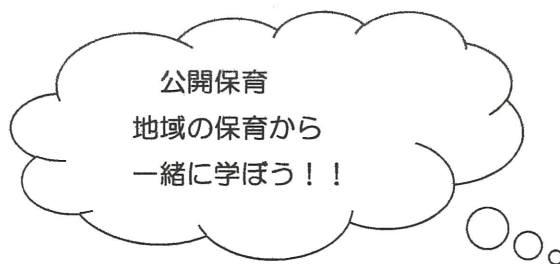
各園では地域連携を推進する中、ご近所の保育施設と保育について語り合い、課題や保育の質の向上に向けた取り組みを共有していきたいと考え取り組んでいます。

テーマは各園で設定しております。

日頃抱えている保育の課題や悩みを、「自分の園でも試してみよう」とか「どこの保育園でも同じ悩みがあるのだな」と課題の解決に繋げていただけたように思います。「公開保育」の良いところは、近隣園での開催のため、気軽に参加いただけること。これからも「気軽に！」を合言葉に、地域連携の中での学び合いに取り組みたいと思います。

各地域の取り組みを特集号としてまとめました。

参考にご覧いただき、各園での保育実践にお役立てください。

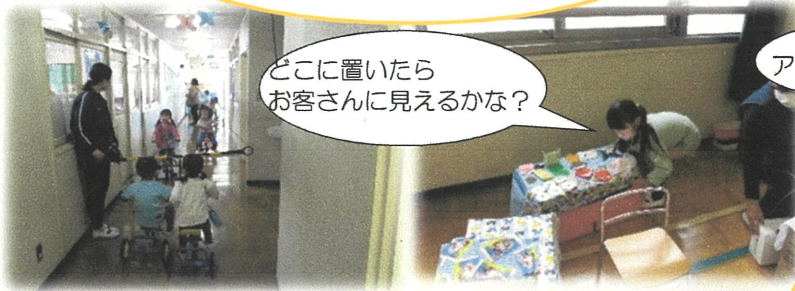


テーマ 「子どもたちが遊びたいと思える環境づくり」

講師 東京家政大学 准教授 野口 隆子先生

若木保育園のクレドにある「明日を楽しみに期待を持って登園できる保育園づくり」の一つの視点として、「子どもたちが遊びたいと思える環境づくり」をテーマにしました。子どもたちの興味ある遊びから様々な経験が展開できるように日々の保育の振り返りをしながら、子どもが自分で遊びを選び、じっくりと遊びこめる環境づくりに取り組みました。

3歳児・5歳児クラス
2階ホールと廊下で「街ごっこ」



どこに置いたら
お客さんに見えるかな？

2歳児クラス
布の具材を取り入れた「ごっこあそび」



アイスやさんで～す

具材

5歳児と用務、職員が作った道路や街で
全園児がいつでも遊べます



4歳児クラス
「虫マップ作り」



バツってどんな形？

調理室前
「今日の食材コーナー」



今日の給食はなにかな？



0, 1歳児クラス
「じっくり遊べるコーナー作り」



いつでもじっくり遊べるように、子どもの興味に合わせて
小さなコーナーをあちこちに設置しています

野口 隆子先生の講演

＜環境を通した保育—子どもが遊びを選ぶために＞
～楽しみな明日…「やってみたい」の連続が
子どもの成長を支えます。保育士が仕掛けや工夫
をしてみる。それに対する子どもの反応を見守り、
明日の保育へ繋げて子どもの期待に応えていく
ことが保育の専門性を高めることにつながって
いきます～という先生のお話から、改めて子ども
の姿を見守り、その姿を職員間で共有しながら環境
づくりをしていくことの大切さを学びました。

職員から

- ・子どもの反応を見て「次はどんな仕掛けをしようか」と保育士自身も明日の保育が楽しみになった。
 - ・環境を変えることで子どもの中に「自分でやってみたい」という気持ちが芽生えたように感じる。などの声がありました。
- ☆『子どもが遊びたいと思える環境作り』は永遠のテーマです。
さらに子どもたちが「楽しかった！また明日もやりたい！」と思えるよう職員で話し合いながら保育の展開をしていこうと考えています。

テーマ「キラキラ笑顔あふれる保育」

～安心感に包まれて“おもしろい”“やってみよう”をたくさん経験しよう～

講師 東京家政大学 准教授 野口隆子

『安心、愛着が土台となり意欲へとつながっていく』『各年齢の心と体の育ちのつながりそして保育のつながり』ということをを意識して保育実践、振り返りを積み重ねていきました。

当日は各クラスの保育活動を公開しました。

0歳児:やってみようの芽生え

「これ何だろう？」
「なにしてるのかな～？」



1歳児:好きな遊びが選べる

環境作り。コーナー、遊びの設定の工夫が遊びの継続へ…



2歳児:ごっこ遊び

「やってみたい」をあそびへ。そして言葉、コミュニケーションへ…



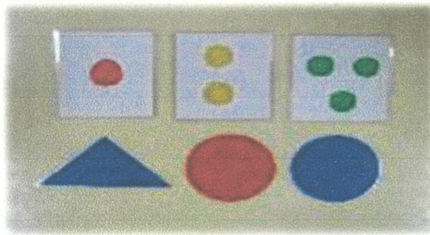
取り組みから
見えてきた
『つながり』

0歳での保育士との安心できる関係から「やってみよう」という気持ち芽生える。0歳で築いた安心感を土台に、1歳では体の動かし方や遊びが広がってきている。

安心できる保育士に見守られながら1歳での一人遊びや平行遊びを十分に楽しむことで、安心をベースに2歳では自分とは違う“友だち”の存在に気づき、遊びのイメージを共有していくようになる。

3歳児:宝探し

自分でできたと感じられる活動の展開



4歳児:パラバルーン

子どもの発想をクラスみんなのあそびにしてい



5歳児:運動遊び、お話作り

経験の継続性、連続性を大切にする



2歳で保育士や友だちとごっこ遊びを繰り返して楽しんでいくと、そこから3歳では自分の気持ちを言葉で相手に伝えようとしたり、自分で考えたり工夫しようとする姿につながっていく。

3歳で子どもが伝えたい言葉を保育士が丁寧に聞いて、認めてもらえる経験をたくさんすると、そこから4歳では友だちの意見を聞けるようになり、さらに友だちとの仲が深まっていく。

4歳で友だちと楽しいイメージを共有して仲を深めていくことで、5歳では、相手の話を聞き、自分で考え、自分の意見を言えるようになっていく。話し合っ決めてたり、話したことを発表する等学びに向かう力につながっていく。

《実践報告・意見交換》

保育実践報告の後は、3グループに分かれて意見交換を行いました。取り組みについての質問や各園での現状や課題等が出されました。保育に対する思いを確かめ合い、励まし合う時間ともなりました。

《講評・講演内容》

年齢なりの学びについてや子どもにとっての連続性とは何か。また保育の記録と共有の在り方、すり合わせの大切さについて。そして UDDR(子ども理解・デザイン・実践・振り返り)についてなど、様々な視点から「つながり」についてのお話を伺うことができました。

テーマ「コミュニケーション能力を高める保育

講師 東洋大学 教授 内田千春先生

高島平けやき保育園は外国幼児が約3割在籍している現状です。グローバル化する保育の中、すべての園児に「言葉による伝え合い」の大切さ必要性を感じました。そこで園全体で「コミュニケーション能力を高める保育」について取り組みが始まりました。

各クラスの取組の様子

0歳児クラス

「みどりいろだね」「積めたね」「うれしいね」と保育士が子どもの動作や表情・気持ち読み取り言葉にしています。言葉になる前の段階からの言葉がけの大切さを実感しました。



ソフトつみき「つめたよ」

1歳児クラス

日常での体験や大人の姿の模倣を楽しんでいます。保育士の言葉や口調を吸収し、まねしています。子どもの表現したいことを待ち、伝わる喜びを大切にしました。



おかあさんごっこ「まってね」

2歳児クラス

イメージを持てるようになる2歳。日常のごっこ遊びを楽しみます。最初は保育士が店員役をしますが、次第に子ども同士へのやりとりへとつなげていきました。



本屋さんごっこ「ください」

3歳児クラス

絵本を介した保育に取り組みました。いろいろな本に触れ、保護者も取り込んで絵本から言葉へ広げていきました。



ばけたくんの塗り絵
「いちごたべたから、あかいの」

4歳児クラス

シークレットボックスやサイコロトークなどゲームをしながら楽しく言葉のやりとりをしました。物や擬音などの語彙を増やしていきました。



シークレットボックス「なにかな？」

5歳児クラス

言葉を楽しむ遊びとして「しりとり」を取り入れました。また、みんなの前で話すことを多く話す経験を増やしました。保育士は、その子どもたちからの声を拾い、保育につなげてきました。



50音マグネット「ちづ?」「ちず?」

調理員による取り組み

模型を使って道具の名前の使い方や、料理ができるまでのデモンストレーションをしました。その中で料理に使う言葉や料理の楽しさを伝えました。



「ピーラーで皮をむきましょう」

午後の講演内容

「言葉の力を育む保育を考える～入園から卒園までを見通して育ちを支える～」

東洋大学 教授内田千春先生

多様性の中での保育のお話をいただきました。実践できるアドバイスが多く、参加者のみなさんも熱心に聞き入っていました。



公開保育当日は、5歳児から発信された「秋フェス」を実施しました。子どもたちの「いらっしやいませ」「ありがとうございました。」と元気な声。子どもたち同士のやりとりを楽しみました。

言葉による伝え合いができる前の段階「言葉ではない伝え合い」が0歳から始まっていることを、再認識しました。そして各年齢、それぞれのクラスの特徴に合わせた「コミュニケーションを高める保育」を進めることができました。講師によるアドバイスも取り入れ、保育園のグローバル化・多様性にも対応していけるよう継続して取り組んでいきます。

【板橋地域】

弥生保育園公開保育

令和4年11月22日(火)



テーマ 「室内の運動遊び」
～音と運動が連動する遊びのしかけを考える～



講師 ミットキッズ 主宰 倉上千恵先生

弥生保育園では職員間で話し合い、「様々な環境変化がある状況の中でも子どもたちに楽しく身体を動かして遊ぶ機会をもっていきたい」「運動遊びに音やリズム、音楽を取り入れて遊びを工夫してみよう」と実践を繰り返し、0歳から5歳のそれぞれのクラスの子どもたちの様子に合わせて取り組んできました。

0歳児クラス
「揺れ遊び」

ゆ～らゆらの声かけて
揺れ遊び



1歳児クラス
「斜面のぼり遊び」

ががおお！の
声かけて
高這い



2歳児クラス
「ごっこ遊びを取り入れた運動遊び」

そーっとねの声かけて
慎重にボードの上を歩く



3歳児クラス
「リトミック遊び」



ピアノのリズムに
合わせて全身運動

4歳児クラス
「兄弟すすめ遊び」



友だちと一緒に
歌に合わせて動く

5歳児クラス
「あんたがたどこさ遊び」



歌に合わせて
前後、左右に
ジャンプ！

〈倉上千恵先生の講話、実技指導より〉

目の前の子どもの姿に寄り添い、子どもたちが「面白い」「もっとやりたい」と思えるような運動遊びに効果的なBGMを使い、前向きな言葉がけによって意欲を引きだしていく大切さと方法について事例を見ながら学びました。

実技指導では実際に職員と参加者として身体を動かしてみることで、保育者自身もその楽しさを体感することもできました。

母指球

この日に教えていただいた「運動に大切な身体の部位」の

「母指球」を使うことも意識して運動しています。

〈取り組みを通して・・・〉

運動遊びにも、愛着関係、安心感の土台の大切さを再認識し、子ども達の個性や興味、育ちの経緯を踏まえた運動遊びに取り組みました。時には悩み、職員間で意見を伝え合いながら遊びの工夫をしてきました。

取り組みの中では、クラス担任の枠や経験年数にかかわらず、職員間で同じテーマについて考え合う機会となり、保育を深めることができました。

今後も保育について語り合う機会を大切にしていきたいです。



テーマ 「子どもの姿から始まる保育」



講師 武蔵野大学教授 箕輪潤子先生

向台保育園では令和2.3年度に「子どもが安心して自分らしく輝く保育を目指す」というテーマのもと、園内継続研究が行われました。その際には保育士が子どもへの読み取りを深めることや、保育士同士で保育の実践を共有をする中からその子に合った保育設定、環境作りをすることの大切さを実感しました。そうした学びを今年度も引き続き行い、子ども達にとって安心できる場・育ちにつながる保育を行っています。今回の公開保育で、そうした保育実践の様子を見て頂きました。

1歳クラス 虫を通した喜びの広がり

探索 探求する生活の保障
「みんなと一緒に」の芽を育てる

いたね！
うれしいね！



「ダンゴ虫いた！」

子ども達の探索、探求をしたい思いが満たされるような日々を意識して過ごしていきました。その中で保育士が、子どもの気持ちを代弁し共感することを大切にしていくなかで、子どもが「ダンゴ虫いた！」と発見した時には、その姿を見た他の子ども達にも喜びが広がり、クラス全体へ虫の興味が広がりました。



4歳クラス みんなで一つのものを

作り上げる楽しさ



「こいのぼりは魚だよ
お魚に骨はあるよね、骨入れたい」

保育士としては「こいのぼりに骨か…」と迷いもありましたが、子どもたちの意見は一致していたので思いを受け止めました。骨作りは、図鑑を見て意見を出し合いかたちにし、満足感を持った活動になりました。

5歳児クラス 予想を超える想像力

兜をみんなで作る



保「兜の頭の所はどうする？」

番「ここはペーパー芯を使う」「ここは鉄骨なんですよ、だからさ…」と実際の兜を見て、イメージを固めます。

日頃から話し合いや、いろいろな素材を使っての製作活動をしているクラス。端午の節句で何を作るか子ども達と相談。みんなで一つの兜を作ることに！
子どもの意見を保育士が整理。自分達で必要なパーツの確認、作業の分担をして活動を進め、作り遂げました。

《子どもの姿から始まる保育でみえた事》

- 子どもの楽しかった、もっとやりたい、またやりたいの気持ちを大切に、共感姿勢で保育する。
- 子ども達にどんな育ちをしてほしいか、それには今どんな活動が必要なのかを保育士がしっかりと計画やねらいをもち、保育士の思いがベースにある中で、子どもの思いを受け止めた保育をする。
- 子どもたちがアイディアにあふれて楽しく遊んでいるような時は見守り、遊びの停滞が見られたら遊びの一員として中に入り、子ども達のアイディアを引き出しながら楽しめる保育につなげていく等

クラス保育やおうち保育（異年齢交流）の中で、子どもたちが主体的に考えていろいろと活動できるよう保育について語り合う機会を大切にしていきたいです。



講師 箕輪潤子先生の講演では 私たちのテーマに沿って子どもの姿を踏まえた保育とは
ということなのかを分かりやすく伝えて頂きました。

- 子どもを一人の主体として尊重し、その育ちを援助するためには、様々な視点からその子たちの姿を理解しようとする事
- 子どもの姿に基づいて、子どもの願いと保育者の願いをすり合わせてねらいを考え、環境構成・援助を行う
- 保育者、同僚と共に子どもと育つ者としての保育者の姿を大切にする